

3月例会は中止

新型コロナウイルス感染予防に配慮のため

例会中止のお知らせ

3月24日(火)に予定していた107回例会「**ピリープー 未来への大逆転**」(2014年、アメリカ、120分)(映画鑑賞会)は、新型コロナウイルス感染予防に配慮して**中止**とし、この作品は、夏期にあらためて鑑賞することになる見込みです。

詳細は、総会や運営委員会の議決が必要なものもありますので、決まりしだい加古川シネマクラブニュースやホームページやでお知らせします。

5月例会「**あなたの名前を呼べたなら**」(2018年、インド・フランス、99分)は、5月20日(水)に 計画どおりに行う予定です。

なお、急な決定のため、詳細については総会と運営委員会で、整理し調整することになりますが、3月例会に関係する二ヶ月間の会費1,000円の納入は不要とする方向で調整する予定です。

会費を、ゆうちょ銀行の自動引き落としで納入の方については、すでに2・3月分の会費引落としは終わっていますが、4・5月分の会費引落としをしないことで調整することになる見込みです。

年会費一括入金の方については、3月例会がありませんので、5月例会時に5,000円を納入いただくことになる見込みです。

定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2020年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、ご出席いただきませうようお知らせいたします。

記

- 1 名称 2020年度加古川シネマクラブ定例総会
- 2 日時 4月18日(土)午後4時から(約1時間)
- 3 場所 喫茶明日香加古川店(粟津マックスバリュ前)
- 4 内容
 - (1) 2019年度事業報告に関する事
 - (2) 2019年度決算に関する事
 - (3) 2020年度役員選任に関する事
 - (4) 2020年度事業計画に関する事
 - ① 例会及び特別例会、② 明石シネマクラブとの例会参加相互協力の試行継続、③ その他の主催事業、共催・協力事業、会議など
 - (5) 2020年度予算に関する事
 - (6) 2020年3月例会中止に伴う対応について

(3) 2020年度役員選任に関する事

(4) 2020年度事業計画に関する事

① 例会及び特別例会、② 明石シネマクラブとの例会参加相互協力の試行継続、③ その他の主催事業、共催・協力事業、会議など

(5) 2020年度予算に関する事

(6) 2020年3月例会中止に伴う対応について

5 議案 現在準備中です。事前に確認できるよう

4月11日頃から25日まで加古川シネマクラブのホームページ上に掲載します。

6 参加方法 直接会場にお集まりください。

7 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。

私の映画KAN

『おだやかな革命』『パラサイト 半地下の家族』

今年初の映画鑑賞は野口市民センターであった『おだやかな革命』でした。参加者30名程度だったでしょうか。市民アクション野口主催の上映会でしたが、2017年全国映連主催山形フェスティバルでメイン上映されていた映画で、観たかった映画でした。各地域で取り組まれている自然再生エネルギーに関して、わかりやすく丁寧に取材されており、その内容にいたっては感動を覚えました。まさに情熱と行動力から生まれたおだやかな革命でした。改めて再生エネルギーを考えさせてくれた学びの多い映画でした。

そして、その4日後に初めて姫路のアースシネマで劇場映画を観てきました。アカデミー賞を取って話題となった『パラサイト 半地下の家族』です。私が観に行ったときは、パルムドール賞は受賞、アカデミー賞はノミネートという状況でした。それでもサービスデーの水曜日とあってか、空いている座席は一番前の席だけという大入りでした。私は一番前の座席で首がおかしくなるのではと恐々でしたが、映画のストーリー、展開にくぎづけ

で、首の痛みも忘れるぐらいでした。脚本が上手く、同年代の**ポン・ジュノ**監督のファンになってしまいました。この作品はブラックコメディと紹介されていますが、韓国的な内容のこの作品がアカデミー作品賞に選ばれ、正直驚きました。漠然と広く感じていたこの世界でしたが、アカデミー賞受賞で一気に近くに感じた出来事でした。(千)

■題名／おだやかな革命

■監督／渡辺智史

■出演／佐藤彌右衛門、小林稔、平野彰秀、平野養生里、井筒耕平、牧大介、辻信一、枝廣淳子、広井良典

■2017年、日本、100分、環境・ヒューマン・ドキュメンタリー

■題名／パラサイト 半地下の家族 (原題：Parasite)

■監督／ポン・ジュノ

■出演／ソン・ガンホ、イ・ソンギョン、チョ・ヨンドン、チェ・ウシク、パク・ソダム、イ・ジョンウン、チャン・ヘジン

■2019年、韓国、132分、コメディ・サスペンス・ドラマ

第72回カンヌ国際映画祭パルムドール、第92回アカデミー賞作品賞・監督賞・脚本賞・国際長編映画賞

前回例会の報告

1月23日の例会は、韓国のプサンを舞台に、激動の時代を家族のために生きたひとりの男の生涯を描いたヒューマンドラマ『国際市場で逢いましょう』を鑑賞しました。今もその時代を知っている人がいる数十年前の激動期を描いているということでは、日本の『ALLWAYS 三丁目の夕日』と似た印象を持った人も多かったと思います。ドラマチックで人生と家族を考えさせる名作で、参加者からも、たいへん好評の意見が寄せられました。

参加会員 100人、明石シネマクラブからの参加者 8人で合計 108人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

4月17日(金)の明石シネマクラブの例会は実施されます!

■名称／『グリーンブック』(2018年、アメリカ、130分)

■物語／時は1962年、ニューヨークの一流ナイトクラブ、コパカバーナで用心棒を務めるトニー・リップは、ガサツで無学だが、腕っぷしとハタリで家族や周囲に頼りにされていた。ある日、トニーは、黒人ピアニストの運転手としてスカウトされる。彼の名前はドクター・シャーリー、カーネギーホールを住処とし、ホワイトハウスでも演奏したほどの天才は、なぜか差別の色濃い南部での演奏ツアーを目論んでいた。二人は、〈黒人用旅行ガイド＝グリーンブック〉を頼りに、出発するのだが一。(作品ホームページから)



■監督／ピーター・ファレリー

■出演／ヴィゴ・モーテンセン、マハーシャラ・アリほか

■日時／4月17日(金) ①AM10:30-、②PM2:00-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

編集後記

加古川シネマクラブ発足後、二か月に一回のペースで、106回の例会を開催してきました。その中には、東日本大震災から6日目の例会で、震災前の気仙沼の場面が映る「春との旅」の上映をはじめ、例会の開催にあたっては、何度も難しい場面がありました。

このたびの肺炎を引き起こす恐れの高い新型コロナウイルスの影響で、例会が中止になることは、どこかすっきりしない気持ちが残る、残念感があります。

見えないウィルスですが、台風が通り過ぎるのを待つ気持ちで、もう少しの間、人が集まる事業は控えておきます。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 145人(1月23日現在)